

青森県立高等学校入学者選抜研究協議会への要望・提案事項

1 現行制度の実施状況を全員で確認

- (1) 過去10年の出願状況（いわゆる定員割れ含め実態）
- (2) 現行制度に対する、高校、中学校、保護者からの意見
特に中学校としてコンピテンシー（知識や技能を生かした具体的な能力や行動特性）重視の学習指導要領下において、中学校での日々の授業や授業改善と、コンテンツベース（何を知っているか・何を理解しているか）の入学者選抜の学力検査とのギャップはないものなのか。
- (3) 部活動の点数化についての全国との比較
 - ①部活動の地域展開に地域差が生じて全県一律でない状況で、住んでいる自治体により差がついてくる可能性のある「部活動の点数化」について、中学校や保護者の意見を知りたい。
 - ②①の状況が否定できないことから、令和6年度の文部科学省調査では全国で12県のみであり、北海道、岩手、宮城も加点していない。
 - ③学力検査の得点という認知能力の数値に、特別活動や部活動という非認知能力との関連性や影響が大きいものを「点数化」し、特色化選抜で「加算」することは、地域間格差や体験格差など、生徒個人ではどうすることもできないものが根底に横たわっているということで「公正」「公平」の観点で問題があるのでは。

2 新学習指導要領の方向性への対応（今年の夏頃中教審答申案予定）

※中教審論点整理から（令和7年9月）

- (1) 義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）
- (2) 質の高い探究的な学びの実現
「総合を中核としつつ各教科等も含めた形で**探究的な学びを一層重視する**・・・」
- (3) 中高の円滑な接続に資する高等学校入学者選抜の在り方
 - ・学力検査に関する課題→学力検査の改善
 - ・入試を背景にした保護者の懸念や要望
 - ・多様な選抜方法に関わる課題→多様な選抜方法の拡充

3 ICTの活用による選抜の変化をどう受け止めるか

2027年から埼玉県は記述式を減らし、90%をマークシート方式へ

→部活動等の点数化や調査書の点数化はせず、5教科の学力検査のみの選抜を導入し、曖昧さ・不透明さを排除して高校側の負担も軽減する方向性へシフト

4 整理

- 1から：授業料無償化により、公立と私立は授業料という経済的負担では同じ土俵に立つことになったが、選抜方法の日程や内容の変更や改善の柔軟性において私立側が優位なことから、公立離れは今後も継続すると想定される。（中学生及び保護者にとって「早く決まる」は、かなり強い判断要因）
- 2から：国の方向性は、探究的な活動も含め生徒の多様性を評価する入学者選抜を求めている。
- 3から：県としての考え（学力重視、透明性高める）の入学者選抜に変わろうとする都道府県も今後増えてくる。公立高校の併願制度などの検討は？

提案

2と3は逆の方向性である。どちらの方向であれ、1の状況を踏まえて検討していくためには、**中高接続に関する大きな指針なり方向性なしでは、教育用語や委員それぞれのイメージの空中戦となり、地に足の着いた議論が難しくなる可能性があることから、県教育委員会が推進しようとしている中高接続のあるべき姿を委員全員で共有しておく必要がある。**